

随想『無限の力』

尾崎まり子(主婦)

突然、それは本当に突然でした。四年前になります。お正月が過ぎてほどない日の午後、息子の功が意識を失って倒れたのです。不整脈から心肺停止状態に陥ったのでした。小学生から野球に熱中し、中学生になると、浦安リトルシニアに入り、やがては甲子園出場、巨人入団を夢見ていました。そんな作文を小学6年の時に書いています。

中学3年で身長176センチ、体重63キロ、鍛えた筋肉質の身体は頑健で、学校は無遅刻無欠席、病気の多い病気を知らずにきた子でした。それだけに突然の異変は驚きでした。

それから4ヶ月、何度も訪れた危篤状態を驚くような生命力で乗り越え、平成12年5月20日、功は天国に旅立ちました。

15歳8ヶ月の人生でした。振り返ると1日24時間ではとても足りないような毎日をごちした子でした。中学生になると、土日は野球の練習や試合で一杯。学校では生徒会役員を1年生からやり、3年では学級委員長も務めました。それだけでも手一杯なのに、部活動ではバスケット部に入りました。苦手の英語も、英会話で進める授業の面白さに惹かれ、その勉強もしなければなりません。野球の仲間、クラスメートとの遊びもあります。あれもやりたい。これもやりたい。でも功はこだわりの強い性格なのでしょうか。中途半端が大嫌いで、どれ一つとして疎かにはできません。徹底してやるから、時間がいくらあっても足りないはずです。

「ああ、時間が欲しいよお。」今でも功の声が聞こえるような気がします。あんな風に生きたのも、自分に与えられた時間の短さを予感していたからなのかも知れません。といって、功は特に才能に恵まれた子ではありませんでした。いささか恵まれているといえば、背の高さぐらい。まず運動神経も人並み、頭脳の方も人並みというのが率直なところですよ。

だから、何かを達成しようと思えば、努力しなければなりません。野球でレギュラーになるのも努力、生徒会役員の務めを果たすのも努力という具合です。そして目標を立て、努力すれば夢は叶うという確信を小さな営みの中で、功なりにつかんだのでしょうか。いつ頃からか、功はそのことを「無限の力」という言葉で表現するようになりました。「誰にでも無限の力があるんだよ。無限の力を信じれば目標は必ず叶うんだ。」お母さん、これだけはちゃんと聞いてくれよという感じで、夕餉の食卓で功が言ったことを、昨日のように思い出します。

「無限の力」で忘れられないのは、やはり中学3年の時の校内合唱祭でしょうか。音楽が得意というわけでもなく、楽譜も読めない功が、自分から立候補して指揮をすることになったと聞いたときは驚きました。それからは楽譜と首っ引きで指揮の練習です。腕を振りすぎて痛くなったり、クラスのまとまりの悪さに悩んだり、色々あったようですが、功は「無限の力」を学級目標に掲げ、みんなを引っ張っていったのでした。そして、クラ

又は最優秀賞、自身は指揮者賞を受けたのです。名を呼ばれ、周りにピースサインを送り、はにかんだ笑顔で立ち上がった功。「無限の力」は本当だと思ったことでした。

その2ヶ月後に功は倒れ、帰らぬ人になりました。しかし、私が「無限の力」を実感するようになったのは、それからかもしれません。一緒に野球をしてきた親友は、功の写真に「俺がお前を甲子園に連れて行ってやる」と誓い、甲子園出場を果たしました。

「功が言っていた無限の力を信じて、看護師を目指すよ」と報告してくれた女の子もいました。出会い、触れ合った人たちに何かを残していった功。それこそが「無限の力」なのでしょう。

私も、と思わずにはられません。自分の中にある「無限の力」を信じて、自分の場所で、自分に出来ることを精一杯果たしていく。そういう生き方が出来たとき、功は私の中で生き続けることになるのだと思います。

先日、用があって久しぶりに功が通っていた中学校を訪れました。玄関に入って私は立ちすくみ、動けなくなりました。正面の壁に功の作文が貼り出されていたのです。それは功が倒れる数日前に書いたものでした。あれから月日が経ち、先生方も異動され、功をご存じの方は3人ほどのはずです。それでも功の作文が貼られているのは、何かを伝えるものがあると思われたからでしょう。これを読んで一人でも、二人でも、何かを感じてくれたら、功はここでも生きているのだと思ったことでした。

最後に拙いものですが、功の「友情」と題された作文を写させていただきます。

『私にとって「友情」とは、信頼でき、助け合っていくのが友情だと思う。

そして、心が通い合うことが最も大切なことだと思う。

時には意見が食い違い、言い合うことも友情の一つだと思う。

なぜなら、その人のことを本気で思っているからだ。

相手のことを思いやれば、相手も自分のことを必要と感じてくれるはずだ。

私には、友が一番だ。

だから、友人を大切に作る。

人は一人では生きられない。

陰で支えてくれる人を忘れてはいけない。

お互いに必要だと感じるのが、友情だと思う。』

尾崎 功

【校長雑感】

皆さんの中にも「無限の力」を感じたことがあるという人は大勢いらっしゃると思います。昨年甲子園に行かせていただいたのも、今思えば、どこかで「無限の力」が働いていたのかも知れません。今年は、残念ながら1回戦で敗れてしまいましたが、後半に1点差まで追い上げることが出来たのは、生徒全員の「無限の力」が結集された証だと思います。

まだまだ戦いは続きます。「チーム白樺」は、これからも心を一つに全力で邁進します。